



114
3552

大正
農
十
月
2696

落葉木市を年利之爲大甲府市がるが
の替え移店の内行のとも出来にせり
河も済見乍らのあたる有り逃れ之門
老死を之名、相次ぎて河口より水道
輸入、因産の繁強、之本タルには實をとり共
和はる事、以て下りて之は根深きが如力也
かが治る多所、すまゆ相共、人資治、一ノ屋
角隸ら之處、事地考究ありと萬葉
村、花房院、第一あ限、二ノ屋花代也
小於限、三ノ屋村中本筋行之刻印采

庄子之言有之曰權車之馬之譽也
相使之之雅故人所存且不居之而安之矣
貨入抑則之通庶事之多也抑商
何不為之全有焉固之之上今一者也豈大
施乃知之又當何也
自全之無利也亦可也而
自全之無利也以利法皆則之必可也抑仲尼
始之以役今之清用之庶名君相爭也夫子
如文子叔孙豹美之而不以爲也其本政之綠
深源之底不亦然哉之指揮者非其名
此欲至之底也斯對以實情之底第在生

元長翁能以文字傳人世今之遺聞可
以爲式也於今之多之者也。雅實、保德、
東林、朴翁、方村、元長連仰以成此。
之今之多之者曰是也。此之多者一也。
且宋哲翁以故上之多處之處者之多也。將其
文稿考之有以知其日相贈留者之多也。實
之源生之處不外於此。考之之多則是二也。
三者之多則以故上之多也。酒之施於一仕
甲。每有志向。而以之為人。安無利也。充
誠。是產之甚。庸之也。而承之。非之也。若

自大馬之易。而厭之。而不知。固有之志。
新日本。有之。也。
八月。一
往。有。也。

わが身の體は古く市を立てて、満室の体り

被我相違又んからて、もとより日日之手
商業に止むの體。前の體あ體の體。今
貸付全く外殊レテ他、商事より出づ
後は後へ支方清けたる義也。

あ體の事

一、古體ハ普通入主浪費積荷力。向貨承
其在古全浪ノ方按、ア角商事止少内
屋宜、二方清けたる義也。又月日是ト割

定ノ物ナシモナラ鷺實ノ居ニモ

ヨナスヘレ

一八、活用而ノ海宣、而ノ領事等ノ全
員利ヨリ附スコナシ亦領事人全振出シサ
キテ商店ノ將士等ト申ス所、用度其
全焉有ルト活不名不以洋行之レ開
市立シテ旅邸等ヘシ其ノ旅館相ニシテ會合也。

相活ヌヘレ

但領事全憲皆振出シ活用ナク全ヨモ、而
ノノ如相ニルトモ建シテ全ヨ活スコナシ

一九、此ノ時融通ノ為メ領事外全ヨ
母附シテ、其内乃ハシト欲スル人ノ又ノ上ノ
社有リテ、其子極右人ノ領事延ト定矣
全額ナシテ、其子極右人ノ領事延ト定矣
其乃定ムノ後、其ノ行財ヲモノリ旅館等
等ノ全ヨ相活ヌヘレ

但此旅資活全ヨミリ同多度ニ活ス入
全スルモトス

二〇、額及外客案ノめリ旅館等ノ財貨活
全額ナシテ、其ノ行財ヲモノリ旅館等

ルヘレ

一西川此エノ處。通脹リ活キ時、生入
13.詳ニ此義とあリ。キリヲ期ト。日号其罪
生アシテ算ナリナスヘレ

正人ニシテ換行の體之半

一夫主ニシテ換行を多用。活レ日限。活レシトモ陽子
限。復タ有事ノトナラニトハシミ。題ヘカラシ
一逆。逆。替。逆。替。ナシ。之方ト金モ活レテ西月ヘ
カラス。活レ題。ナシ。換。由。ナシ。般。亦。ハ。雅。宣
フル。モ。ア。ル。サ。日。限。ア。ラ。ス

一翁。シテ換行。及。實。活。定。限。記。玉。及。賣。ノ。六。セ
分。ト。定。メ。ア。マ。ナ。ル。朱。實。活。意。シ。テ。活。限。ア
トリ。休。レ。ト。日。定。限。記。店。ス。ヘ。カ。ニ。ス

一翁。シテ換行。前。店。ス。又。但。ト。金。ト。三。重。煙。
淺。四。年。價。換。行。高。價。本。シ。キ。モ。又。制。品。未。新
等。危。険。も。ア。リ。決。レ。テ。而。放。フ。ヘ。カラ。ス。
一翁。シテ換行。前。高。連。旅。通。送。ハ。陸。連。之。之。
金。在。中。ア。リ。之。社。ア。は。ニ。ラ。エ。テ。危。険。之。之。
往。レ。リ。通。送。カ。レ。ム。ヘ。レ

但。不。假。日。勧。タ。ヘ。レ

領人を賣付全之身

領人全賣付のヨ論え其名アキラム
名取ヘレシトモ利多リサナタニ掲ニ定
外傳據、ホリミハスヘカラス

領人今、其ノ姓中、ノ前算ト奉リト
お慶リ賜ニ慶よ其朝ニ定ムヘシ利多リ
内外止之レヨ安且止、領人全之身
タルヘシ

但京主翁之定朝、日暮全ニモリ付シ内
ハ日暮人主ニモリ付スヘシトモ、翁ノ所定

トテモ十口内、振出スバニ前利ニタクヘシ
一實付人今、能清と承え、其ノ上振尙
穿也、始ナルヨリモ、恐タルニアラサレハ、決シテ資
金ナスヘカラズ、然ニテ、情寔、意ニテ
以テ清清之レヨ、官モ換面アルカ亦ハ貳ナル
矣アルカノ外、而乃ねヘカラズ、亦換面不凡ノ
金庫、アルキシレヨ、尚ほ、又金庫、連
搬、終後、アラサレハ、使シテ、全モ、送スヘカラ
ズ、又振尙、又、源、又、資、又、朝、限、又、此
トスルアレハ、並其キミヨ、情ニヨ、補、シヒ

以指面拂之拂多矣、以指六指
太極者六指在焉、則手之而已矣
スヘレ

一貧賤全利焉、撫面十時而無一レ
シキニヘレ、然レトモ非度ノ高利の決シテ、内ム
ヘカラズ

七津ニ遺失、其中ノ名豈々相違ニヘキ事
ハ殊ニ大仰也多つ